

## 『主だ、と分かる瞬間』(ヨハネの福音書 21 章 1-14 節) 2023.5.7.

<はじめに> ハッと気づく瞬間があります。今までわからなかったこと、もやもやしていたことが一気につながり、解けて、一筋の光が差し込む瞬間です。イエスが分かるのもこれと似たところがあります。弟子たちもその経験をしているからです。

### I 三度目の顕現

#### ①再び弟子たちに(1)

よみがえられたイエスは、すでに 20 章で弟子たちにエルサレムで 2 度にわたり現れ、この箇所まで 3 度目です(14)。イエスが回を重ねて弟子たちに現れたのはどうしてでしょうか。過去 2 回と今回とは、どんなところが違うでしょう。

#### ②ティベリア湖畔にて(1)

ティベリア湖はガリラヤ湖とも称され、ペテロら多くの弟子の故郷にあり、イエスとともに過ごした場所でした。また、イエスは十字架に架かれる前夜に、よみがえった後ガリラヤに行くと言われ(マタイ 26:32)、復活後にもその約束を再述されています(マタイ 28:7,10)。

#### ③主だ、と分かる(7)

7 名の弟子は、ペテロの発案で漁に出ますが、何も捕れません。が、岸からの助言に従ったところ、驚くほどの大漁となります。その時、その声の主がイエスだと気づきます。私たちも、ある時突然に「主だ」と分かる瞬間があります。気づききっかけは何だったのでしょうか。

### II 主だ、と分かるポイント(自分で見つけてください)

#### ①一転しての大漁(3-6, ルカ 5:1-11)

夜通し働いても何一つ捕れなかった彼らが、助言に従って網を下ろすと大漁を得た出来事は、イエスとの出会いと弟子としての始まりの出来事でした。そこでペテロが気づいたのは主のことばに力があることと、自分の罪深さでした。

#### ②用意された食事(9-13, ヨハネ 6:1-13)

パンと魚は群衆を養われた奇跡と共通アイテムです。イエスの伝道活動の頂点の出来事でした。「持って来なさい」(10)と招き、それをを用いて御業をなされました。食べる物がない者たちをあわれみ、満たされただけでなく、労した弟子たちも満たされました。

#### ③パンと炭火(9,13, マタイ 26:26, ヨハネ 18:18,25)

十字架の前夜、パンを裂いて分かち与えるイエスの姿と重なります。その食事は罪の赦しの契約の証しです。しかし、弟子たちはイエスを捨てて逃げました。離れてイエスを追ったペテロが、三度イエスのことを知らないと言ったのも、炭火のそばでした。

### III イエスとはどんな御方か

#### ①傍らに立つイエス(4)

弟子たちが漁をする湖畔にイエスは立って、弟子たちを見つめ、声を掛けられます。よみがえられたイエスは私たちの生活の傍らに立ち、見つめておられます。「子どもたちよ」(5, 13:33)とつくしみ、助言を与えられる御方(イザヤ 9:6)です。

#### ②先回りされるイエス(9)

イエスは弟子たちの動きをずっと見守っておられたのではないのでしょうか。その間に炭火を起こし、食事を整えておられます。約束されたとおり、弟子たちより先にガリラヤにおられました。私たちの前を歩み、先を見通し、前もって語られる御方です。

#### ③気づくのを待つイエス(12)

自分から現れて名乗るのではなく、弟子たちが自分で発見し、受け取るように仕向けておられます。イエスの教え・導きは手取り足取りでの事細かな指示・指導ではありません。イエスとともに歩む日々を通して、イエスのことばと生き方を受け取ることです。

<おわりに> 3 年余りイエスとともに過ごした弟子たちだからこそ、この場面で「主だ」と気づくことができました。イエスと歩む日々の積み重ねの中で、生活の端々にイエスを見出し、その御方を思い起こすことができるようになります。生きておられる主に気づいていますか。(H.M.)